

社会科学の新しい課題に挑戦する先生方と授業を紹介したい。

富士宮市立大宮小学校の米津英郎先生は、「人口減少社会をいきていくための資質や能力を育成する小学校社会科教育の可能性」をテーマにした実践研究に挑んでいる。

小学校社会科は、子どもたちが日常経験する社会現象を基盤に展開されてきた。だが、急激に変化する社会においては、現状の社会現象の学習だけでは、子どもたちが大人になって生活する社会の形成者になるために必要な資質や能力を育成できない。一步先の社会すなわち少子高齢人口減少社会の課題を想定した授業づくりが必要である。

これが米津先生の問題意識である。ただし、人口減少に関する特別な学習内容や学習時間を新たにするために、「少子高齢化対策のランキングづくり」を開発。人口という視点から日本の特色を捉える学習の「内容知」と「方法知」を連動させた、参加型学習活動を実践する。

他方、金原先生は、「資源や産業から見た日本の地域的特色」の学習において、今後最も危惧される産業である「農業」に注目し、生徒の発想を豊かにし、自由な判断を生かす「分類」という「方法知」を中心においた実践を試みている。

この両先生の実践は、「内容知」が重視されがちな中学社会科において、「方法知」にこだわった優れた試みである。さらに、新しい「内容知」の学習は、新しい「方法知」によって可能になることを示す貴重な実践でもある。

このような「内容知」と「方法

設けることを意図するのではない。従来の授業実践のなかに、少子高齢人口減少社会を生き抜くために必要な資質を育成する可能性を見出し、積極的に活用することを試みる。

そのひとつが、4年の「浅間大社の秋祭り」において、子どもたちの高齢者へのかかわりを重視した実践。高齢者の増加への負担感ではなく、高齢者への親しみ、感動、尊敬の感情を培う機会を拡大することで、「高齢者の行動様式を理解し、役立とうとする力」の育成に結びつけることが目的である。その意味で、米津先生が小学校社会科のゴールと位置づけるのが、6年の公共事業の学習。市役所の将来計画担当者を講師に迎え、3年の地域学習から積み上げてきた学区内の人たちの力もかりて、高齢者に優しいまちづくりを、子

知」の新しさがセットで求められる社会科の新たな課題の代表が、法教育であろう。掛川市立城東中学校の高橋恒明先生が取り組んでいる実践研究のテーマである。

新たな分野である以上、テキストが必要。高橋先生が選んだのは、法務省からだされた、『はじめての法教育 我が国における法教育の普及・発展を目指して』である。その中にある、「ルールづくり」「私法と消費者保護」「憲法の意義」「司法」という4つの單元から、「ルールづくり」と「私法と消費者保護」をとりあげる。そして、実験的な実践を繰り返すことから、公立中学の社会科公民的分野の学習として実践可能な単元の開発に挑む。

「ルールづくり」の單元構成で高橋先生が重視したのは、ルール

どもたちが試みる。

この人口減少社会を中学校地理「人口からみた日本の地域的特色」の学習で展開しているのが、静岡大学教育学部附属島田中学校の岡田智行先生である。岡田先生は、金原正高先生（藤枝市立青島中学校／元静岡大学教育学部附属島田中学校）とともに、社会科の「方法知」に注目し、学習過程を重視する授業研究に取り組んできた。

特に、開発教育の現場で実践されてきた参加型学習（KJ法、ランキング、マトリクス、ウェビングなど）の手法を積極的に導入し、中学校社会科の学習活動の方法として整備してきた。

そのなかから、岡田先生は、少子高齢化を生徒が具体的に理解するために「分析表づくり」を開発。また、多面的・多角的にとらえる

ること。一つは、ルールは変えることができるという知と感覚の育成。もう一つは、それをサブバイバルゲームやシミュレーションなど多様な参加型学習活動によって実践することである。同様に、「私法と消費者保護」の單元においても、最重要課題である契約自由の原則の学習を、消費者の立場のシミュレーション活動による体感によって培う過程が、組み込まれている。

実は、ここに紹介した4先生の実践研究には、私も含めて職場の同僚が参加している。一步先の社会を知り、異文化の現場で鍛えられた学習方法を得て、新たな規範を創るうえで、研究者が参加できることも、静岡の学校現場の力と考える。



金原正高氏の授業  
(静岡大学教育学部附属島田中学校)



米津英郎氏の授業 (富士宮市立大宮小学校)  
岡田智行氏の授業  
(静岡大学教育学部附属島田中学校)

高橋恒明氏の授業 (掛川市立城東中学校)

### 特集 授業に“書く活動”=定番と新メニュー

#### 連載講座

● ワールドワイドで学ぶ 日本史と世界史のインターフェース 原田 智仁 110

● 南北軸から日本の歴史を見る(2) 自由と民主主義って何だ?! 「自由」と「責任」という感覚 岡本 薫 114

● 新学習指導要領で授業をつくるー焦点はここだ 習得・活用・探究の相互関連を踏まえた授業づくり①活用型の授業 安野 功 116

● 新しい社会科学力 読解力を鍛えるテスト問題 向上主義社会科学力論 社会を読み解く(2)ー問題の構制 池野 範男 120

● 戦後史の授業づくり ウルトランの遷徙で見る日本の経済成長ー高度経済成長からオイルショックまでー 園山 真司 124

● 新学習指導要領の先取り企画 金融学習の焦点はここだ 小学校社会科の内容2個人金融、財とサービス、そして意思決定を学ぶ 「そよ風のジャワの樹」どんぐりマーケット 猪瀬 武則 128

● こんな時どうする? 実話ではなかった、オランダ少年の話 浅水 一則 132

● わが県の情報 「ここの授業あり」 馬居 政幸 134

静岡県 表紙イラスト 石井 京子

#### 小特集

#### 社会科で食育 Ⅱユニーク教材アラカルト

究極の見開き2頁にまとめるで自己評価も 相互検討 新村 勲 瀬川 恵子 富士谷晃正 87 84

確認チェックするための書く活動 定番と新メニュー 子どもも納得!「社会科で身に付ける力&評価」新メニュー 書川 欣也 90

単元毎の見開きページシートまとめそして、学期末テストに向けたノートまとめ 末宗 昭信 93

確認チェックは「速さとまとめ」が勝負 前田 憲明 96

ADHD/LDの書く活動 特徴と指導の注意点 横山 浩之 99

子どもが驚く世界一の残飯量から環境を考える 並木 孝樹 102

日本の伝統食を復活させ、食糧安保を 安住 順一 104

コメの粒を食べる日本人 熊谷 壽 106

100%ふるさと食材レストランは実現可能? (第5学年) 茂松 清志 108

みる・読む・聞く・話す・書く何が一番難しいかーと聞かれたら 有田 和正 野口 芳宏 大森 修 9

出力型の書く活動と入力型の書く活動 どころが違うか 井上 嗣祥 10

この学習活動にこの書く活動 定番と新メニュー 見学で役に立つ書く活動 定番と新メニュー 山口 浩彦 14

観察で役に立つ書く活動 定番と新メニュー 福山 憲市 17

調べ学習で役に立つ書く活動 定番と新メニュー 中田 幸介 20

体験で役に立つ書く活動 定番と新メニュー 伊倉 剛 23

描図で役に立つ書く活動 定番と新メニュー 河田 孝文 26

PC活用で役に立つ書く活動 定番と新メニュー 沼田 能昌 29

作業学習としての書く活動 定番と新メニュー 地図作りの指導 定番と新メニュー 鈴木 章弘 32

年表作りの指導 定番と新メニュー 小林 義典 36

図・グラフ作りの指導 定番と新メニュー 佐々木 潤 40

メモや記録のとり方の指導 定番と新メニュー 高橋 恒久 44

書く意欲&思考力UPのノート指導 定番と新メニュー 簡条書き・アウトライン作文 単元まとめの三点セットで指導する キーワードとトレース 桜木 泰自 48

数多くの事項を出力させる事が基本 教師の発問が思考力アップにつながる 理由をたくさん書かせることで思考力が高まり、討論が成立する 桑原 和彦 51

この授業場面でこの書く活動 定番と新メニュー この授業場面でこの書く活動 定番と新メニュー 教科書に直接書き入れる活動 定番と新メニュー 榎引 丈志 60

話し合いの中に書く活動 定番と新メニュー 鎌田 裕文 63

発表学習で書く活動 定番と新メニュー 福原 正教 66

学習のキーワードを選ぶ活動 定番と新メニュー 岩崎 秀幸 69

黒板に出て書かせる活動 定番と新メニュー 松本 俊樹 72

社会科テストで書く活動 定番と新メニュー 瀬川 勝 75

〔新企画〕比べて考える私の都道府県授業 Ⅱ どういう書く活動を入れるか デフォルメ日本地図と日本地図直写スキルそしてアメーバ日本列島 新村 勲 81 78

「かまぼこの授業」3ステップで書く活動を 瀬川 恵子 81 78

グラビア・わが県の“お国自慢”物産展=勇 眞/電子黒板で大活躍の“最新 授業データ”=刀祿 敬則/地名の雑学=宇田川勝司/目次写真=馬居 政幸(134ページに紹介があります)/目次4・この数字を読み解く 平和を守る会計学=佐島 直子/表3、4・“この1枚”でどう発問するかー授業の実力を試してみませんか=有田 和正